



問1 【4-1 被害的】

物をとられたと被害的になることが週 1、2 回あるが、特に対応はとっていない場合、基本調査ではどれを選択しますか。

- ① ある
- ② ときどきある
- ③ ない

問2 【4-2 作話】

事実と異なる話を毎日のように家族に報告するが、家族は特に手間と感じていない場合、基本調査ではどれを選択しますか。

- ① ある
- ② ときどきある
- ③ ない

問3 【4-5 同じ話をする】()に当てはまる言葉を選んでください。

基本調査の選択肢の選択では、単に同じ話をするのではなく、()かどうかで選択する。

- ① 場面や目的から見て不適切な行動がある
- ② 介護の手間が発生している
- ③ 周囲が迷惑している

問4 【4-6 大声を出す】

「大声を出す」の特記事項の記載について、最も重要なものはどれですか。

- ① 大声で言っていることの具体的な内容を記載する
- ② 日常生活上の支障を記載する
- ③ 介護の手間と頻度を記載する

問5 【4-15 話がまとまらない】

家族によると、話していることに整合性がなくなっているように感じることもあるが、「会話が成立しない」というほどではないとのこと。家族は対象者が1人にならないように見守っており、ほとんど外出することができない。この場合、最も適切なものはどれですか。

- ① 介護の手間があるので「ある」を選択する
- ② 「ない」と「ある」の中間をとって「ときどきある」を選択する
- ③ 「ない」を選択し、特記事項に介護の手間を記載する

正解と解説は裏面をご確認ください。

この問題は、厚生労働省要介護認定適正化事業 e ラーニングシステムに掲載の「問題集 有無で評価する調査項目」から抜粋しました。

ぜひ、ログインしていただき、ほかの問題集もあわせて繰り返し学習してみてください！





問1 【4-1 被害的】

① ある

【解説】【基本調査について】

BPSD 関連の基本調査項目は、過去1か月間の状況から、現在の環境でその行動が現れたかどうかに基づいて選択します。これらの行動に対して、特に周囲が対応をとっていない場合や介護の手間が発生していなくても、各項目に規定されている行動が現れている場合は、頻度に基づき選択します。

BPSD 関連の有無だけでは、介護の手間が発生しているかどうかは必ずしも判断できないため、二次判定で介護の手間を適切に評価するためには、特記事項に、それらの有無によって発生している介護の手間を、頻度も合わせて記載する必要があります。

問2 【4-2 作話】

① ある

【解説】【作話の定義】

「作話」については、当該行動があったか、なかったかという事実が評価の基準となり、実際の対応や介護の手間とは関係なく選択します。

なお、対象者への対応や介護の手間の状況については、特記事項に頻度とともに記載します。

問3 【4-5 同じ話をする】()に当てはまる言葉を選んでください。

① 場面や目的から見て不適当な行動がある

【解説】【同じ話をするの定義】

基本調査は、「しつこく同じ話をする」行動の頻度を評価します。もともと、性格や生活習慣から、単に同じ話をするものではありません。

対象者への対応や介護の手間の状況については、特記事項に頻度とともに記載し、介護認定審査会の二次判定の判断を仰ぐことが重要です。

問4 【4-6 大声を出す】

③ 介護の手間と頻度を記載する

【解説】【調査上の留意点】

BPSD 関連の基本調査項目は、過去1か月間の状況から、現在の環境でその行動が現れたかどうかに基づいて選択します。

BPSD 関連の基本調査項目は、その有無だけで介護の手間が発生しているかどうかは必ずしも判断できないため、二次判定で介護の手間を適切に評価するためには、特記事項に、それらの有無によって発生している介護の手間を、頻度も合わせて記載する必要があります。また、介護者が特に対応をとっていない場合などについても特記事項に記載します。

問5 【4-15 話がまとまらない】

③ 「ない」を選択し、特記事項に介護の手間を記載する

【解説】【調査上の留意点】

基本調査項目の中には該当する項目が存在しないものの類似の行動またはその他の精神・行動障害などにより具体的な「介護の手間」が生じていることが聞き取りにより確認された場合は、類似または関連する項目の特記事項に、具体的な介護の手間の内容と頻度を記載し、介護認定審査会の二次判定の判断を仰ぐことができる。